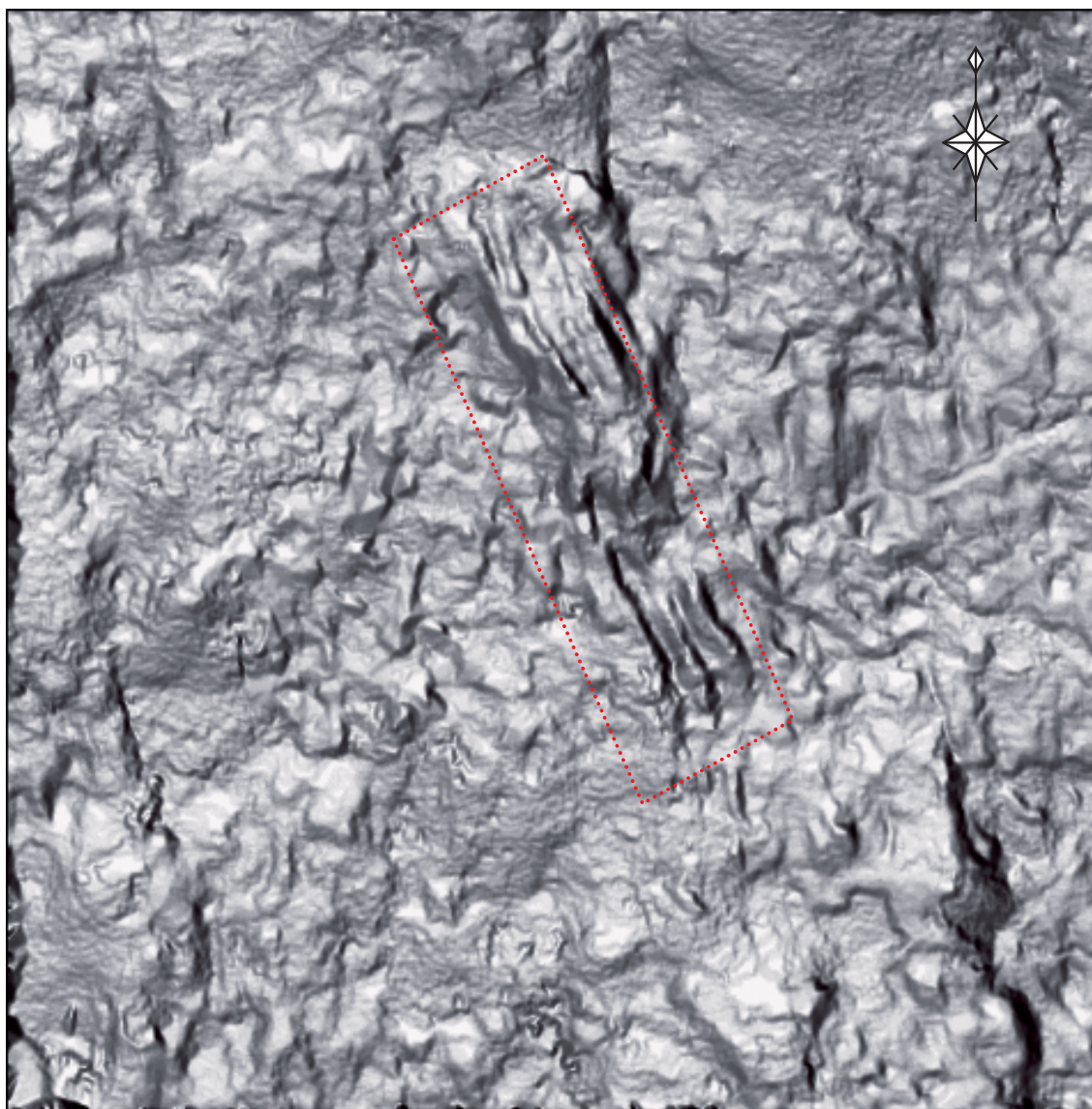


物は初めは白色や灰色であったものが、その日の夕方には黒色に変化しました。噴火のクライマックスは最初の3日間程度であり、以後は消長を繰り返しましたが、25日午後から再活発化し、1708年1月1日未明に噴火は停止し、16日間に及ぶ活動が終息したとのことですが、この噴火により、現在の御殿場市や小山町には厚さ数10cmから2m以上に及ぶ降下火砕物の堆積が確認され、この降下火砕物により多くの田畑が埋め尽くされるとともに、一部地域では降下した火砕物が高熱であったため火災が発生している。この大量の降下火砕物が原因となって、静岡県東部や神奈川県西部の河川流域の人々は、こののち長い間、土砂流出や河川氾濫による災害に見舞われている。特に、酒匂川下流域の足柄平野に流入する付近では、河床上昇が著しく幾たびも河川氾濫に見舞われたとのことである。」

7. 航空レーザスキャナ測量により確認できた地形

火山土地条件図「富士山」の作成にあたっては、航空レーザスキャナ測量システムを用いて富士山南東斜面の地形測量を行い、得られた陰影画像等のデータを基に溶岩流や新たな火口などの微地形の確認を行った。このシステムは、上空（航空機）から地上までの斜距離を計測するレーザ測距儀、位置を計測するシステム（GPS）と航空機の姿勢や傾きを計測する装置（IMU）を用い、約2,000m上空からレーザを照射し、地上の標高を計測するものである。このシステムを利用することによって、空中写真では判読が困難で人が立ち入れないような地域の地形を標高データの処理により把握することが可能となる。



図一12 航空レーザスキャナ計測により得られたデータから植生等の除去処理を施した上で作成した陰影画像（北西方向、俯角60度で光をあて明暗を人工的に作り出し、立体的に見えるようにしたもの）。

場所は、富士山南東斜面（標高1,250m付近）の日本ランド遊園地西方約1.5km。画像のほぼ中央に見える特徴的な起伏地形（ほぼ南北の線状地形、図中赤点線内）は、割れ目火口。